

文化服装学院
2023 年度 自己点検・評価
内部評価委員による報告書

2024 年 12 月

1 教育理念

● 1-1 学校の教育理念

1-1-1 文化服装学院の教育理念

本学の根幹となる教育理念が明示され、100 年の歴史の中で培った教育方法や外部とのつながりを活かし、理念である共創教育の追求が共通認識として浸透している。前年度の課題に対して適切に検証が実施されている。「つながりを大切にした共創教育」から「国際的な共創教育」に更なる広がりをもたせ、本学院の教育理念として時代に即した対応となっている。

2 学校運営

● 2-1 法人組織 ／ 2-2 学校組織

新ワークフローシステムの導入や各部署における多様な働き方、共有ドライブの活用、勤怠システム構築を進めたことなど、課題解決に向けた活発な議論も着実に進んでいるものの改革途上であり、更なる改善が求められている。

- ・ペーパーレス化・業務のスリム化、多様な働き方、勤怠システムの構築など取組内容は具体例を挙げ評価内容を明確にする必要がある。
- ・評価制度、勤怠システム等、新たに始まった事について推移を見守る必要がある。
- ・教員研修が活発に行われており、専門力の強化が行われている。
- ・各委員会が課題意識をもって取り組み、新たな課題を得ていることが適切に点検評価できている。
- ・キャリア支援委員会の早期就職活動への導き、また就職支援室と教員間の連携により、就職実績が内定率 1 割向上したことは評価できる。

● 2-3 財務状況

補助金収入の増加や資金運用の見直しによる財務改善、各種経費支出の低減もされており、厳しい中での対応策が実施されていて、ほぼ維持出来たことは評価できる。但し今後の抽出課題としては、学生数の減少に対応する中・長期的な策を具体的に講じる必要がある。

- ・学納金だけでなく東京都や私学財団の補助金活用についての記載があり、取組の具体的な内容が記載されている。補助金収入や学生数維持に関する課題も点検・評価の重要な項目として記載されている。
- ・補講や課外授業といった今までサービスとされていた分野で徴収できる学納金など、今後の改善策に検討の余地がある。

● 2-4 法令等の遵守

2-4-1 諸規程の制定、学則、細則、内規等の整備

2-4-2 ハラスメント対策の状況

2-4-3 個人情報の保護

学則及び関連資料の分類・整理とデータ化の推進、ハラスメントについて教職員の意識向上、時代に即した学則の改定と必要に応じた各種既定の見直しについても記載されているが、特にハラスメントに関しては多方面からの点検評価が必要で、継続して課題の抽出と改善が必要。

- ・個人情報保護について、具体的な対策内容の記載を指導する。
- ・ハラスメントに関して、課題にあげながら本年度もアンケート調査が行われなかった。調査ができなかった理由の分析とその改善策は急務である。
- ・全教職員が共通認識を持てる参考事例などのマニュアルやガイドラインの制作の検討と、学生への共有も必要。
- ・常勤教員への継続的なハラスメント防止研修会の実施は評価できる。非常勤講師や一般職員へ拡大し全学的に取り組む必要性がある。

● 2-5 社会貢献等の取組

2-5-1 活動への支援状況

2-5-2 公開講座・教育訓練等

社会貢献としてバザー売上金や募金活動を通じて、日本赤十字社や NPO 団体への寄付・震災への寄付など柔軟に対応している。今後は寄付活動だけではなく、文化服装学院が考える社会貢献についての抽出が必要である。教育活動に記載されている授業や産学コラボレーション、SDGs に関する取組を社会連携・地域連携とし、新たに記載する方向で次年度以降進める。

- ・支援金や募金などは学友会が中心となり行っている。学生自らが進んで行っていることは評価できる。
- ・公開講座オープンカレッジの新規受講者獲得や受講生の満足度を高める多くの取組は評価できる。収益につながる記載だけでなく、一般に開放された教育の場として社会貢献の意識をもって運営する側面の検討が必要。
- ・教育活動の項目欄では多くの科で社会連携と地域連携としての取組が報告されており、本学らしい社会貢献となっている。教育環境の付属機関・施設の項目欄においても図書館、服飾博物館や文化・服装形態機能研究所は社会貢献等の取組として記載できる内容がみられる。次年度は新たな項目の検討として集約し進める。

3 教育環境

● 3-1 施設・設備

3-1-1 教室・講義室・実習室・研究室・事務室の整備、使用状況

3-1-2 機材・備品の管理状況

3-1-3 IT 環境の整備・管理状況

各部署で講義室や実習室の調整・整備が行われ、施設や設備に対し適切な維持管理と安全性の確保ができている。サステナブルキャンパスや多様な利用者への配慮についても記載されており、適切に評価・点検が実施されている。

- ・具体例がなかったり、点検評価がされていない項目がある。PDCA（Plan Do Check Action）を徹底する。
- ・施設・設備に関して学生アンケートを取り改善するなど多方面からの検討も必要。
- ・更なる改善として、喫煙所問題の課題の抽出は中期に渡り取り組む課題といえる。
- ・キャンパスマスター プランの策定により、各校舎の整備等について計画的に実施検討されることは良いが、学生数の推移予想及び収支バランスの検討も必要である。

● 3-2 付属機関・施設

3-2-1 教育・学修支援

各施設で学生の学修支援につながる取組がなされている。特にそれぞれの施設において独自の企画が立案されている事、グローバルセミナー開催、データ化、データベース更新など利用者の利便性向上に対する改善が適切に行われている。

- ・国際交流センターは学生の参加が多くなる全学的な取組があっても良い。
- ・学園創立 100 周年記念特別展を図書館と博物館が共同で取り組んだことで学園の役割を広く周知でき評価できる。
- ・服飾博物館、図書館など他校にはない設備のさらなる有効活用を検討し、広報効果としても学外へ向けて広く発信することを期待する。

3-2-2 学生生活支援

各施設において、限られた人員や予算の中で工夫をしながら対応している内容が記されており評価できる。学生寮は安心の寮生活、食生活や健康など様々な学生サービスについて適切に点検・評価が実施されている。その他本部管轄の部署の点検評価に不足部分がみられる。次年度から適切に行うよう、自己点検のルートの再確認をする。

- ・健康管理センター や購買事業局、学生食堂は具体例をあげてより詳細に点検評価の改善を望む。
- ・健康管理・情報発信だけを課題としているが、日々医務室を訪れる学生の対応や状況を分析・記入してはどうか。
- ・学生食堂は多様な学生への対応とし、アンケート等を通じて学生の要望を聞き更に満足度が上がるよう改善が必要。

3-2-3 研究・対外活動

前年度の課題に対して適切に取り組み、点検・評価が実施されている。特に積極的な計測データ収集、設備投資、企業との共同研究を行っており、本学の研究・対外活動への貢献度は高く適切に資料へ記載されている。

- ・この項目での取組は 2-5 の社会貢献等の取組としても本校らしい社会連携として発信できる。
- ・3D スキャナーの新たな活用に期待する。

4 学修支援

● 4-1 キャリア支援

4-1-1 就職活動支援・就職状況

4-1-2 企業開拓・関係強化

4-1-3 キャリア教育

求人情報発信、キャリア開発授業、インターンシップ等キャリア支援に関する活動が積極的に実施されている。教育課程編成委員会とも連携し、企業委員の提言も積極的に取り入れながら、適切な課題設定と点検・評価が実施されている。下級年次から就業意欲を高め、就職活動を早期から取り組めるよう、教職員が連携しながら学生支援を行っている。

- ・クラス担任との連携により、学生の就職率向上につながっていることは評価できる。
- ・留学生の就職率に関して検討できる様に具体的な数字があると良い。
- ・新設コースに対する求人の開拓が情報収集にとどまっている。今後の開拓に期待する。
- ・多様化している職種の更なる開拓を課題とし、取組が必要。

● 4-2 資格取得支援

4-2-1 資格取得率・状況

教室内のポスター掲示、各学生へのメール配信、校内放送による周知など適切な対応を実施している。また、各検定試験の運営方法の改善など適切な課題設定が記載されている。試験当日の欠席率や合格率の低下などの課題も残る。

- ・各科が授業で行っている資格取得対策も記入し、内容を充実するとよい。
- ・受験者数と合格者の減少、また当日欠席に対しての対策を明記できると点検評価としてなお良い。
- ・受験者数と合格率も減少しており原因の追求と改善策の検討が必要。
- ・資格取得のメリットが周知される改善策の検討。

● 4-3 学生相談体制

さまざまなニーズに合わせて柔軟に相談体制を実践している。心因性の問題を抱える学生が多く、多様な相談内容がある中で、学生相談室と教職員の連携も含めた取組みを行っていることなど多様な問題に対応しており、一定の成果をあげている。

- ・オンラインでの学生相談、保護者や教職員を含めた学生サポート体制が行われている点、障害学生・多様性への視点もあり評価できる。
- ・具体的な介入とは例で良いので記載があるとわかりやすい。また、相談者の何割くらいの学生に対して行っているのか数字の記載があると成果としてわかりやすい。

● 4-4 経済支援・健康管理

4-4-1 奨学金

4-4-2 健康診断

奨学金については経済支援における奨学金の取り扱いが複雑化する中で、手続き方法や書類の取り扱いが適切に実施されている。健康診断についても監督官庁の指針に即した適切な運営が行われている。

- ・奨学金 申請数と採用数の記載があるとわかりやすい

- ・在籍数に見合った奨学金制度の採用人数の検討など更なる充実が望ましい。

● 4-5 卒業生・社会人への支援

4-5-1 すみれ会（卒業生の会）

4-5-2 再就職・起業支援

100 周年のすみれ会ではこれまで疎遠であった会員が多数参加した。今後多くの会員が参加出来る場となることが期待できる。今後も継続しすみれ会を活性化させる策が必要。卒業生紹介企画「LINKS」は卒業生の活躍を知るだけでなく、在校生にとっても職種を知るうえで非常に有効であった。卒業生は本校の財産であるので、今以上の取組を行い、連携を強化できる仕組み作りを今後の課題とする。

- ・海外留学生支援奨学金制度の新設は、グローバリゼーションの第一歩として評価できる。
- ・公式サイトの連載企画の反響や、奨学金受給者のその後の活動などを評価していく必要がある。
- ・卒業生が就職や転職した数字がないので成果が不明。再就職・起業支援の具体的な内容とその結果を明記し、次年度はもう少し具体的な点検を期待する。

5 教育活動

● 5-1 学校のカリキュラム編成

5-1-1 文化服装学院のカリキュラム編成状況

各科の人材育成の目的に合わせたカリキュラム編成、企業の意見を取り入れながら時代にあわせたコースの新設や既存カリキュラムの改善など、課題設定と点検・評価が適切に実施されている。

- ・教科書のデジタル化を進めており、これから活用に期待出来る。
- ・カリキュラムの見直しは毎年きちんと検討されているが、時代に合わせた改善のため、絶えず検討が必要な項目である。
- ・実践的な授業を実施するために企業や非常勤講師と連携し、実務に即した授業を提供できていることは評価できる。
- ・バーチャルファンクションコース担当教員のスキルアップを図るなど適切な授業内容や環境の整備が行われている。

● 5-2 課程のカリキュラム編成、授業研究

5-2-1 服飾専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

科の特色にあわせてカリキュラムの改善・点検評価が行われている。特にコンテストを意識した授業・応用力を意識した授業やコラボレーションの実施・技術力向上のための授業・就職を意識した授業展開など教育効果を上げるためのカリキュラム変更が実施されている。

- ・課題以外の活動時間の導入はコンテスト活動等にも有効で評価できる。
- ・学生一人一人の自主性を伸ばすカリキュラム変更が出来ている。
- ・時間割の見直しを行い、フォローアップとプラスαもできるカリキュラムになっている。

5-2-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

業界の変化に対応したカリキュラム編成が行われ教育効果として現れている。また、各科の特徴や就職先を意識した授業やインターンシップ、コラボレーションが行われており、実践的な学びや就職にも繋がっている。さらに学生気質の変化への対応などの課題設定が明確で適切に点検・評価が実施されている。

- ・各科共に休退学者を減らす取組が行われ、素早い改善により休退学者を減らす結果に繋がっている。
- ・いくつかの社会貢献に繋がる取組がされている。
- ・SDGs やサステナブルについても学ぶ授業が多数取り組まれており、社会問題への意識づけがされていることは評価できる。

5-2-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

流通分野では特に重要なグループワークの方法や協調性、コミュニケーションスキル向上も意識し、SNS や Web 販売、Web 接客のスキル等をカリキュラムに取り入れている。全体的に時代に合わせたカリキュラムの検討がなされており、SDGs やデジタル関連の授業を特別講義に含むなどの工夫を加えながら教育に落とし込んでおり、適切に点検・評価が実施されている。

- ・各種検定試験の受験や合格率向上に向けて工夫がなされている。
- ・1年生は、2024 年度の点検において、退学者に向けての課題をいれると良いのではないか。
- ・2年生より、外部講師・企業と連携した内容など、コースに特化した授業が行われている点が評価できる。

5-2-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成状況、授業内容

産地での研修や卒業生による特別講義、企業とのコラボレーション、インターンシップ等で実践的な経験を積むなど多岐に渡る取組が、就職に対する意識の向上や就職内定につながっている。きめ細かい指導でコンテストでの成果につなげるなど、明確な課題設定ができ適切に点検・評価が実施されている。課題に対する点検評価以外に、学生数の増加という新しい課題の必要性が挙げられている。

- ・多くのコンテスト受賞やコラボレーションを行い評価できる。
- ・各科専門性の高いカリキュラムにより、実践的な学びとなっている。文化服装学院の強みの部分をしっかりと外部にアピールし、学生数の増加につなげるとよい。

5-2-5-1) II 部服装科のカリキュラム編成状況、授業研究

5-2-5-2) II 部ファッション流通科のカリキュラム編成状況、授業研究

II 部ならではの多様性に向けた授業内容の工夫や学科目を多く受講できるなど、学生に寄り添った授業内容により、改革にスピード感が感じられ評価できる。特に II 部流通科は、下級生から就職への意識づけがされ、就職率という形で成果を上げている。

- ・限られた時間で効率的に学べるカリキュラムとなるよう取り組まれている。
- ・多様な学生に対応する授業方法を工夫・検討し、効果を上げていることは評価できる。
- ・対面授業に加え動画対応による授業は、特に多様な学生が多い夜間部の学生に対し、効果的な取組となっている。

5-2-6 関連科目の授業研究

各関連科目に Google Classroom を活用するなど、授業運営の工夫がなされている。また、デジタル機器の導入など学生気質にあわせた課題設定、授業研究が行われている。全体として学生が興味を持つ題材を利用するなど、学習意欲向上につながる課題設定と取組がなされている。

- ・各科目間で連携をし、学習効果をあげる工夫がなされ評価できる。
- ・教室によっては放課後の使用や教員対応などを検討する必要がある。
- ・語学では DMM 英会話のカリキュラム導入。新しい取組に期待する。
- ・様々な学科が増え、週に 1 コマ、隔週に 2 コマ、自由選択科目など授業体制も多岐にわたっている。単位数が減少した科目もあり、学生にとって知識や技術の取得の度合いを検証する必要性がある。

● 5-3 学外授業

5-3-1 学外実習の状況

5-3-2 インターンシップの状況

5-3-3 海外研修の状況

5-3-4 コラボレーションの状況

5-3-5 コンテスト活動の状況

学外学習は学生気質の変化や多様性を考慮した研修内容の検討により予算内で効果的な研修が実施されており、適切な企画・取組が行われて評価できる。海外研修は、他校ではカリキュラムに入っている学校もある。入学相談の際聞かれる項目の一つである。学生の希望数に沿って企画が進むと学生の満足度が増すのではないか。また、2023 年度は希望者全員の参加が叶わなかったが、希望者全員参加可能な体制を検討する必要がある。

- ・インターンシップ前に必要な学生指導（契約書の導入）や課題が明確になっており、学生の要望に応じた、職種開拓がなされていて評価できる。
- ・コラボレーションでは、学生が任意で参加できる企画が実施されて、学びにつながっている。内容の精査を行い、適切に実施されている。
- ・コンテスト活動については、迅速な情報共有ができるており、学生に合うコンテストを選ぶことにつながっている。
- ・学外実習はコミュニケーションキャンプや研修旅行以外の校外授業も多く行われているので、集約してはどうか。

● 5-4 校行事

5-4-1 行事の状況

学生の自主性を尊重したイベントを実施することで、より自主性が育ち学びを深めることができ、貴重な経験を積むことができている。こうしたイベントの発信は学生募集にも効果的に繋げる事が出来ている。課題設定としても更なるイベントの充実があげられ、適切な取組が実施されている。

- ・オンラインとライブイベントを連動・融合させていく着眼点はとても効果的である。但しオンラインイベントが何を指しているのか若干分かりにくいため、具体的な内容の記載が欲しい。
- ・文化祭ファッショショナーの取組を学生主体となる方向に変更し、学生の自主性を育む機会となったことは評価できる。
- ・文化祭は、ファッショショナーだけではないので、総合的に点検評価する。

- ・文化祭が入学の意思決定につながっている。次年度の課題として更に広報活動と連携強化する必要性がある。

● 5-5 課外活動

5-5-1 学友会（在校生の会）

様々な科や学年を跨いで学生による活動が実施されている。活動としても社会貢献活動や学生間の交流促進などが活発に行われ、自主性の尊重やリーダーシップの育成などにもつながっている。

- ・学生の自主性を重んじながら社会貢献の取組にも連動し適切な活動が行われ評価できる。
- ・学生全員が所属する本校の伝統と特色ともいえる学友会活動として 100 周年イベントや全体の取組が適切に点検評価できている。

● 5-6 教育・成績評価

成績評価管理、評価名簿提出などが課題として設定され、点検・評価が適切に実施されているが、卒業年の最終評価提出時期に関しては見直しが必要。今後はその他新たな課題の抽出も行う。

- ・卒業年次の担任の負担や仕事の効率化を加味し、それら側面からの点検評価が必要。
- ・電子化やペーパレス化などに関する新たな課題を設定する必要がある。
- ・評価システムの検討も課題にする必要がある。

● 5-7 退学者への対策

現状の分析と結果については点検がされているが、そこから解決策に進む必要がある。進路変更、健康上の理由、学業不振に対して、できる対策の検討や改善策を課題として抽出することが必要。次年度は把握や分析以外の具体的な策を課題として取り組む。

- ・昨今の学生気質に対応した制度設計や、単位取得に関する規定の見直しなども課題として検討する。
- ・各クラスで行っている対策も含めて課題として点検が必要。
- ・後期授業料の発生に伴い、学期末と年度末に退学者が多いことは今後も推測される。
- ・進路変更に至った経緯も分析する必要がある。1 年生の退学者減少に向けての対策も新たな課題とする。
- ・18 歳人口が減少する現在、留学生の入学促進に更なる対策が必要。日本語能力不足をサポートできるような対策も必要。
- ・継続して教職員一丸となり退学者削減に取り組む必要がある。
- ・教育活動の各科・各教員においては、退学者対応がほぼ必須課題として記載され点検評価出来ている。教員と職員が更なる連携を行い、学校でできる対策と教室内でできる対策など改善が期待される。

● 5-8 学生募集

5-8-1 学生募集の状況

5-8-2 広報活動

出願手続きの効率化対策及び入学者確保に対する分析と対策が具体的に明記されて評価できる。広報活動は各種学校説明会・相談会やイベントを実施し、動画や SNS コンテンツを積極的に運用し細やかな対応を行っている。

- ・18 歳人口が減少する中、現状では健闘していると言える。しかし今後更なる 18 歳人口の大幅な減少に伴い、中長期的な具体的な対策や自己評価を行うべき。

- ・出願者の増加となる SNS による重点的な取組や、卒業生や在校生のマンパワーを取り込んだ改善策の検討を今後の課題に加えるとよい。
- ・細かく分析し広報活動に取り込んでいることは評価できるが、引き続き重点課題として取り組み、課題はいくらでもあるとの認識で全学挙げて取り組む必要がある。

● 5-9 国際交流

5-9-1 留学生の受け入れ状況

5-9-2 合作校・提携校の状況

5-9-3 外部団体・機関との連携

留学生については法令に基づいた適切な管理が継続されている。グローバリゼーションの理念に近づいた活動内容や海外機関とのコラボレーションの充実化は、学生の意識向上や国際的な視点を与えることへつながっている。合作校においては、コロナ禍で 3 年ぶりとなる対面での授業であったが、滞りなく遂行できたことは評価につながった。

- ・日本へ留学する学生のために、環境整備の更なる充実や留学生の要望等を継続的に検討する必要がある。
- ・留学生を管理把握できている事は評価できるが、意識差、レベル差などの問題がおきる前の予防策も必要ではないか。
- ・自国で活躍している卒業した留学生の協力など、新しい切り口での改善提案を課題とする。
- ・留学生対応では事務局の受け皿の強化が必要。中国語・英語のできる職員の増員など環境を整備するよう、課題として取り組む。

自己点検・評価委員会 内部評価会議

内部評価委員（敬称略・順不同）

相原 幸子

門井 緑、吉村 香、早渕 千加子、朴澤 明子、木本 晴美、朝日 真

浜田 法子、小林 克也、渡井 邦重、熊谷 江理

以上